

# 県外研修に参加して

○県外研修に参加して

理事 小池 実

8月19日、人権機関有田川主催の県外研修に参加しました。

研修先は大阪市にある「シャープ特選工業株式会社」と「ピースおおさか」(大阪国際平和センター)。

シャープ特選工業(株)は、

1950年にシャープ株式会社創業者の早川徳治氏が、幼い頃近所に住む盲目のおばあさんにお世話になり、そのおばあさんへの恩返しの一環として設立されました。この会社代表者及び経営陣を含め中心となる人達のほとんどが視覚障がい者でした。独立採算制をとって経営をはじめ、徐々に事業を拡大し、多くの障がい者、健常者を従業員に加え発展し、現在社員数は101名(内障がい者57名)となっています。

事業は家電部品の組み立て・検査、電子部品の加工・検査。生産のみならず、パーツ梱包や書類の電子化、

印刷業務などその業務は多岐にわたります。

創業者の「何かを施す慈善より、障がい者自身で仕事をし、自立できる環境を作ることが福祉に繋がるといふ思いから現在でも、従業員サポート体制も大変充実しているような気がしました。

午後からは、戦争と平和に関する多くの資料が収集・保存・展示されているとともに、講演会など、学習と交流の場が提供されている、「ピースおおさか」(大阪国際平和センター)を訪れました。

センターでは「大阪空襲と人々の生活」「15年戦争」「平和の希求」の三つの展示室からなり、それぞれ資料や映像を見ることが出来ます。また講演では、「ピースおおさかの語り部さん」の片山忠昭さんから「学童集団疎開の経験」についてのお話を聞かせてもらいました。大阪から和歌山県の湯浅や広川へも集団疎開する国民学校があったとか、戦争末

期には、食料・燃料・衣類など、生活必需品が不足していることがありまえたったそうです。

片山さん(当時国民学校3年生)自身も天王寺駅で、和歌山から大阪の親類を探しに来た、おばさんからもらった「おにぎり」のおいしかったことが、今でも忘れられない、など戦争当時の悲惨な状況を聞かせてもらいました。

日本には69年間平和であったが、世界では戦争しているところもあり、日本の平和を100年200年と次の世代へと引き継いでいかななくてはならないと話された。

空襲や戦争を体験した人々の高齢化が進む今日、戦争の悲惨さや平和の尊さを話し合い、若い人たちに伝えていくことがますます大切になってきているように思います。

## 「女性に対する暴力をなくす運動」について

暴力は、その対象の性別や加害者、被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありません。特に、配偶者などからの暴力、性犯罪、売買春、人身取引、セクシュアル・ハラメント、ストーカー行為など女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成する上で克服すべき重

要な課題です。そこで、全国的に女性団体その他の関係団体との連携、協力の下、社会の意識啓発など、女性に対する暴力の問題に関する取り組みを一層強化することを目的として、毎年11月12日から25日までを期間として「女性に対する暴力をなくす運動」が実施されます。

\*配偶者等について

・事実婚や元配偶者※1)も含まれます。

・生活の本拠を共にする交際相手※2)も含まれます。(元生活の本拠を共にする交際相手※3)も含まれる)

※1 離婚前に暴力を受け、離婚後も引き続き暴力を受ける場合

※2 婚姻関係における共同生活を営んでないものを除く

※3 生活の本拠を共にする交際関係を解消する前に暴力を受け、解消後も引き続き暴力を受ける場合

## お知らせ

10月16日(木)、人権特設相談所を開設いたします。相談は無料で、秘密は厳守されます。

○場所

金屋文化保健センター 研修室2

○時間午後1時から4時まで

## ■人権に関するお問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課

TEL 5212111

FAX 3214827